

自ら判断して身を守ることを目指して

忠生中学校では、震災時及び火災時において、皆さんが自分自身の判断で適切な避難行動ができるようになり、身を守るように避難行動を訓練します。

震災や火災はいつどんな時に起こるかわかりません。そのため、これらへの正しい理解や訓練の実施は、実際の場面で適切な判断につながっていきます。実際に、どのように行動するかを自分で考える習慣が自分と他者を守ります。皆さんには、自らの判断で身を守るように中学校生活の中で学んでほしいと思います。

～今年度の避難訓練の心構え～

①実際の場면을想像して真剣に取り組もう

当然ですが、震災や火災というものには命の危険がともないます。訓練の時から実際の場면을想定して動かないと本当の震災・火災の際に冷静な判断のもと避難ができません。また、不用意な行動でほかの人を危険な目に合わせてしまうこともあります。

②日頃から指示をしっかりと聞いて迅速に行動しよう

交差点に信号がなければ大渋滞が起きてしまうように、学校という場所で多くの人が安全に避難するには、まとまって整然と行動する必要があります。避難時こそ落ち着いて行動し、みんなで身を守り合うために、日頃から心がけてください。

地震・火災時の避難行動

地震

- ①地震の揺れを感じたら、机の下で身の安全を確保する。教室以外の場合は、「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せる。
- ②非常ベルがなったら、静かに放送を待つ。
- ③避難指示に従って避難行動にはいる。
- ④避難時…校舎内：押すな、駆けるな、しゃべるな、もどるな。
校舎外：上履きのまま集合場所まで小走り。

地震の際は、渡り廊下は使用しない。アリーナ連絡通路、渡り廊下の下は通らない。(物が落ちてくる危険あり)

火災

- ①非常ベルがなったら、静かに放送を待つ。
- ②必ず出火場所を確認してから、避難行動にはいる。
- ③避難時…校舎内：押すな、駆けるな、しゃべるな、もどるな。
校舎外：上履きのまま集合場所まで小走り。

火災の際は、出火場所を避けて避難する。エレベーターや電子機器があるところを避ける。避難開始場所によっては、非常階段を使用することもあります。

今自分がいる場所で災害が起きた場合どうするか、ぜひ考えてみてください。